



SciREXセンターインターの声 2021

2022.03
SciREXセンター

◆ 目的

政策研究、政策実務に関心のある学生に対し、実践的な業務経験を提供することにより、学生の皆様の学修の深化に寄与するとともに、政策研究、政策実務に対する理解を深めていただき、当分野に携わる人材の裾野を拡大するため、インターンを募集しています。

◆ 修了要件

- ✓ 修了前にプロジェクトリーダーとSciREXセンターに対して、研究・調査内容についてその成果を報告
- ✓ 修了に必要な勤務時間は、70時間

◆ 実績（直近5年）

| | | |
|-------|-----|---|
| 2017年 | 7名 | 東京大学、一橋大学、九州大学、滋賀大学 |
| 2018年 | 8名 | 東京大学、東京外語大学、中央大学、一橋大学、GRIPS、留学前ギャップイヤー |
| 2019年 | 8名 | 東京大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、慶應義塾大学、津田塾大学、Haverford College |
| 2020年 | 15名 | GRIPS、東京大学、京都大学、一橋大学、名古屋大学、慶應義塾大学、Mount Holyoke College、Soka University of America、Columbia University、Cornell University |
| 2021年 | 4名 | 京都大学、千葉大学、Soka University of America、Pomona College |

（注）実績は、当該年度でのインターン開始分を集計



プロジェクト：「医療分野の特性に合った基礎研究・応用研究・実用のイノベーションエコシステム構築に資する調査研究」

私はインターンシップで橋渡し拠点の研究プロジェクトに参加させていただきました。

大学では計算生物学やバイオインフォマティクスの研究に従事する中で、研究の支援や環境構築に関心を持ったのがインターンシップに応募させていただいたきっかけでした。生命科学分野における研究の成果が社会に還元されるまでに大変時間と労力がかかる中、これらの試みを支援する橋渡し拠点がより評価され、後押しされるよう、拠点から創出された特許や知財の価値評価の調査を行いました。データの統計学的分析手法のみならず、日本の研究支援のあり方や、研究者の生の声にも触れることができ、大変勉強になりました。今後も、今回のインターンシップを通じて学んだことも活かし、日本が誇る生命科学研究の成果がより多く社会に還元され、世界を牽引できるよう、研究の支援や環境構築に携わる職に就きたいと考えています。

コロナ禍の中、オンラインにて多くのご指導をして頂いた隅藏教授、渡邊様をはじめとした多くの方に大変お世話になりました。本当に多くの学びが得られた機会を頂いたことに感謝申し上げます。

（2021年度インターン修了）



プロジェクト：「医療分野の特性に合った基礎研究・応用研究・実用のイノベーションエコシステム構築に資する調査研究」

生体医工学を学ぶ身として、医療関係の研究シーズが実際に患者の元に届くまでのプロセスに興味があり、医療関係の研究シーズを現場で実用される技術に「橋渡し」する方法を考えるこのプロジェクトに参加させていただきました。

インターンでは主に大学の特許について分析しました。特許自体について初めて詳しく学び、知財についても興味を持ちました。数万件に及ぶ特許データを分析し、大きなデータを扱う大変さ、面白さも感じました。また、何かを数値化し、データとして分析すると面白いことが言えるという着眼点も新鮮で、身の回りの事柄についてもどう分析できるかと考えるようになりました。世界が広がりました。

データ分析は初めての経験でしたが、丁寧にご指導いただき、また他のインターン生からも刺激を受け、発表まで進めることができました。コロナ禍でオンラインでのインターンでしたが、非常に貴重な経験をさせていただき心から感謝しております。インターン修了後もプロジェクトに関わらせていただく予定ですので、本インターンで学んだことをもとに今後も貢献できるよう目指して参ります。

(2021年度インターン修了)

